

竹島氏城(竹島城)(市指定史跡)(伊賀市愛田)

竹島氏城は日置氏の一族である竹島景義によって築かれた城です。竹島氏は代々北畠氏に仕えており、1581年(天正9年)に起きた「第二次天正伊賀の乱」では城主の竹島右衛門が「春日宮山の合戦」で討死しています。現在城址には主郭部周辺に土塁などを確認することができ、城址碑が建てられています。なお13代・竹島景勝には松尾芭蕉の姉が嫁いだことが発見されました。

「攻城団」サイトによる

竹島氏城は、愛田地区北側の丘陵に築かれた城だ。愛田地区の公民館から道しるべに従って林道を登る。ちょうど城の東側から城域に入ることになり、東側にある堀切のところに城の案内板があった。

竹島氏城の主郭は、結構な広さがあり、しかも三方に高々と築かれた土塁が見事に残っていた。また、主郭の南虎口が大手で、虎口の外側には二の曲輪が設けられていた。南虎口の土塁上に石碑が建てられてあった。

竹島氏城は、室町時代に竹島景義によって築かれた。竹島氏は、愛田村の土豪で南北朝時代には北畠能郷に仕え戦功があったと云われ、天正伊賀の乱では春日宮川で城主竹島右衛門は討ち死にしている。

「攻城団」サイトによる

竹島氏代々の居城。

南北朝時代、竹島景義による築城。

竹島氏は愛田村の土豪で、南北朝時代には北畠能郷に仕えて戦功があったとされる。

1581年の織田氏による伊賀侵攻(天正伊賀の乱)では、当時の城主・竹島右衛門が壬生野宮川で討死している。愛田地区北側の丘陵に築かれた丘城。主曲輪は状態よく整備され、西側を除く三方を高い土塁で囲んだ方形の城館。

北西と南西に虎口があり、南西の虎口の外側には曲輪が確認できる。東側は堀切で尾根を断っている。南西の土塁の上に城跡を示す碑が建つ。

「滋賀県の城」サイトによる

